



# 福井県 中学校長会の窓

発行 福井県中学校長会  
編集 福井県中学校長会広報部  
印刷 宮田 写植 印刷  
福井市春日1丁目7-4  
TEL (0776)35-3865

第 140 号  
令和 2 年 7 月 15 日 発行

## 会長挨拶



福井県中学校長会

会長 川上 晋  
(明倫中学校)

例年通り、入学式の式辞に最終チエックをいれようとしている頃、突然、いつもとは異なる年度の始まりを覚悟することになりました。この号が校長先生方のお手元に届く夏季休業に入る頃には、この事態が劇的に好転していることを願うばかりです。現在、新型コロナウイルス感染症の影響は、国境を越え世界中に大きな打撃を与え続けています。日本でも、連日テレビ等で政治・経済界における甚大な数字が放映されるたびに、現在の異常事態を実感しないわけにはいきません。さて、この事態、私たち教職員にとって何か「意味のある期間」にできるのであれば、これをしつかり受け止める価値はあると思います。教職員としての使命感を再認識したり、普通の学校生活

の中ではできなかつた働き方・学校行事の見直しを行ったりといったことを実践し、共有する時間に充てられたのなら、この期間は貴重なものになったと言えます(五月中旬現在)。

本来、五月八日(金)に開催予定であった南越大会では、第一分科会：越廼中の高橋和代校長先生、第二分科会：越前中の佐々木昌広

校長先生、第三分科会：開成中の山川龍一校長先生、そして第四分科会：南越中の牧田善治校長先生から、それぞれ研究題に沿った発表をいただくことになっていました。残念ながら、発表は見送られることになりましたが、いずれも現在の教育課題に対する貴重なご提案を準備いただきました。各校長先生方に感謝申し上げます(ご提案内容は「研究集録」をご覧ください)。

さて、本県の教育は、「タテ持ち」や「協働性」といった福井の良さで表現される教員の真面目さに支えられていると言われます。しかし、教育界が抱える課題は、来年度の新学習指導要領のスムーズな全面实施、いじめ、そして益々身近になってきた外国籍生徒や「CSJ」等の人権問題への適切な対応、多様化する入学者選抜制度改善への提言と対応、将来を見据えた部活動の模索、教員が生徒に向き合うための業務改善、多様化し変容する地域・家庭との連携等、多岐にわたります。その克服のためには、全校長先生方の叡智を結集することが必要です。本校長会では、各専門部(教育研究・人事行財政対策・進路対策・広報・学力診断)をはじめ、昨年度発足した「働き方改革

推進委員会)で、各部長・委員長の校長先生方を中心に、諸課題の克服に向けた取組を行っていただいています。一方、今回の新型コロナウイルスに対する長期的な対応、若い教職員の地道な育成や複雑化する要因による不登校生徒に対する支援、保護者のニーズや突発的な事件・事故への適切な対応等には、皆様方との情報共有を活用した課題解決が不可欠であると考えます。学校教育の現場では、様々な情報を基に、校長が最終決断を下す場面があります。その時、躊躇ない適切な対応への一助となるのが、この校長会の役割なのだと思います。

私たちが若い時に目指した教育界は、未知の夢と希望に溢れていました。諸先輩からご教示いただいた素晴らしい知恵と体験、そして人間性を礎に、自分でコツコツ遣り甲斐を見つけ、子どもたちと共に成長していく楽しさを実感していました。私たち校長は、若い世代の先生方には活力となる「夢と希望」を、ベテランの先生方には熟練した技術や知識が活きる「役割」を、そして生徒たちには、近い将来、国際社会にあっても幸福追究に必要な「資質・能力」を自分から引き出し、楽しむ教育を保障していく教育環境を創出する義務を負っているように感じます。校長として、常に自己研鑽し、学校経営力を高めていきたいと思います。

## 令和二年度 福井県中学校長会

### 役員名 列

会長	(明倫) 川上 晋
副会長	(武生) 水谷 善長
副会長	(高浜) 村田 好史
副会長	(芦原) 松野 信一
会計監査	(宮崎) 太田 秀一
会計監査	(明倫) 川上 晋
理事(福井)	(安居) 牧田 秀昭
理事	(灯明寺) 塩谷 圭司
理事	(松岡) 大西 泰弘
理事(坂井)	(金津) 早見 敏幸
理事	(丸岡南) 柳原潤一郎
理事(奥越)	(開成) 山川 龍一
理事	(勝山) 伊藤 浩行
理事(鯖丹)	(中央) 澤 和広
理事	(織田) 橋谷 和憲
理事(南越)	(武生) 水谷 善長
理事	(池田) 平井 浩一
理事	(南条) 齋藤 為之
理事(二州)	(角鹿) 千葉 雅人
理事	(三方) 百田 忠浩
理事(若狭)	(小浜) 山名 聡
理事	(高浜) 村田 好史
理事(中教研)	(社) 岩本 明裕
理事(中体連)	(藤島) 高柳 浩樹
理事(教育研究)	(越廼) 高橋 和代
理事(人事財政対策)	(国見) 渡邊 俊範
理事(進路対策)	(大東) 湯口 和弘
理事(広報)	(美浜) 岸本 嘉宏
理事(学力診断)	(成和) 坂田 雄一
庶務幹事(庶務)	(美山) 藤井 雅之
庶務幹事(会計)	(殿下) 小辻 省一
事務局員	山下 正明
事務局員	小島 敏弘

# 専門部だより

## 教育研究部

高橋 和代 (越中)

本年度、県中学校長会の教育研究部長をさせて頂きました。どうぞよろしく願います。

教育研究部の活動の中心である「県中学校長研究大会」は、私にとって、学校経営・運営の考え方や工夫を知ることが出来る貴重な学びの場でした。具体的な実践に対し、発表者に直接質問できたり、参加者からも教えて頂いたりする、大変ありがたい機会でした。その研究大会に関われることを光栄に思い張り切っていたのですが、残念ながら「南越大会」が中止となってしまいました。今、教育研究部七名で研究紀要を作成していますので、お手元に届きましたら御一読願います。南越大会に向けて御準備頂いていた南越ブロックの校長先生方に心から感謝申し上げます。

### 【活動内容と期待される成果】

①令和二年度 県中学校長研究大会「南越大会」の研究紀要作成と大会運営

六月に「南越大会」の研究紀要を配布予定です。校長としての研究・研修の充実に活用していただきましたなら幸いです。

②令和三年度 県中学校長研究大会「奥越大会」についての準備

発表原稿依頼や研究紀要の準備を行い、次年度に引き継げるようにします。

③県中学校長会ホームページの運営・管理

年間三回(六・十一・二月)更新し、県中学校長会や中学校の活動を紹介していきます。

## 人事行財政対策部

渡邊 俊範 (国見中)

県人対部会では学校教育・学校経営の課題解決に向けて、小学校部会と一体となつて、教育条件の整備充実のため学校現場と行政側が意思の疎通を図れるよう「教育長と語る会」を計画し、提言や意見交換を行っています。

令和元年度は以下の様なテーマで懇談を行いました。

①いきいきとした児童生徒を育成するために  
②活力ある学校元気の教職員の育成に向けて

各課題について、いろいろな意見交換を行うことができ、教育長からはこれからの教育のあり方や市町教育長会議での業務改善の話し合いの継続、教員の負担軽減、人材確保、ふるさと教育への支援など様々な回答を得ることができました。

本年も、各地区各学校における課題等を取り上げ、県教育委員会

に提言、懇談を計画し、改善を図っていきたくと考えています。

## 進路対策部

湯口 和弘 (大東中)

県中学校長会進路対策部は、昨年は私立高校の無償化と丹南地区での県立高校の再編があり、全体像がつかめない中で、進路希望調査や県教委、県立高校、私立学校協会への要望書の提出、進路に関するアンケート等を行いました。また、体験入学の引率をやめたことや入試は出欠確認のみ、と決めたことは、働き方改革につながつたと考えています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、学校は長期にわたって臨時休業となり、部活動の各種大会は中止されています。このことが県立高校の特色選抜、私立高校のスポート文化選抜にどう影響するのか、現時点ではわかりません。また、高校の先生を招いての進路説明会も従来のやり方では難しいと考えます。夏季休業の短縮により、この期間の体験入学も実施が難しいようです。多くの私立高校ではネット出願の準備が進んでおり、調査書や入試事務の簡素化も要望しています。

とても荷の重い一年になるようですが、各校長先生のご意見やご支援をいただきながら、生徒の進路実現のために努力していきますので、よろしく願います。

## 広報部

岸本 嘉宏 (美浜中)

福井県中学校長会広報部では、機関紙「中学校長会の窓」を年間二回発行し、本校長会の活動を広報するとともに、会員相互の情報交流を図っています。

本来ならば、春の県中学校長会研究大会の記事として、福井県知事様のご講話や各校長先生方の貴重な実践をお届けさせていただくとともに、新任校長先生方の意気込みに触れることができます。また、二月に発行の第二号では、十一月の県中学校長会研修会での県教育長様のお話や学校運営についてのヒント満載の講演記事、退職される校長先生方のお言葉を掲載させて頂いておりました。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響による休校措置をはじめ、多くの取組や活動が中止となる状況になっています。非常時対応というところで、様々なことを想定した対策、今までにない在宅学習の準備のために大変な状況にあります。また、学校再開と学校生活における具体的な感染予防対策に各校大変忙しいことと思われると思います。そのような中、多くの校長先生方が寄稿くださいましたこと、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

現在の状況はすぐには改善されないかもしれませんが、今までの危機管理を強いられることになりませんが、知恵を出し合って、本来の学校教育を取り戻す努力をしたいものです。

## 学力診断部

坂田 雄一 (成和中)

県中学校長会の取組として、県内中学校三年生を対象とする学力診断テストを十一月四、五日に予定しています。このテストは、学習指導要領に基づいた学力の状況を診断するために行うものであり、その診断結果をもとに、「生徒は、自己の学習の達成状況を確認して、事後の学習の参考にすること」、「教師は、学習指導の課題を把握して、授業(指導)改善に生かすこと」を目指しています。

しかし今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う長期臨時休業により、運営上の懸念事項が多く、且つ、極めてタイトなスケジュールの中で取組となることが予想されますが、これまで以上に中学校の校長先生方のご理解を賜りながら、学力診断テスト本来の目的が十分達成されますように、計画的に活動を進めていきたいと考えております。

とりわけ、県義務教育課指導主任の先生方、県中教研各教科部会長並びに県中学校長会学力診断部委員の校長先生方におかれましては、問題作成やテスト実施に向けた運営において、ご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。また、問題作成にあたる各教科の先生方には、日程的にも大変厳しい状況にありながら、使命感をもって取り組んでいただいていることに深く感謝申し上げます。

# 中学教育に

# 清風

## 新入会員だより

### 笑顔あふれる学校に

進明中学校長 合川修一



本校は、校区内に養浩館庭園など福井市を代表する文化施設を有し、旧街道沿いに商業

施設を伴う、閑静で落ち着いた市街地の中にあります。新型コロナウイルス感染症の影響で、例年とは全く違う形となりましたが、一三三名の新入生を迎え、全校生徒三七六名で令和二年度をスタートすることができました。

中学校「角のギャラリー」に、日本人で初めてノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士の色紙が飾られています。これは、一九五二年来景の際に、生徒たちへのメッセージとして贈られたもので、「こうすれば自分一人だけでなく皆が幸せになれるか人生の一大事とはこの事である」と綴られています。新三年生に教科書を渡した四月十日(金)、生徒会役員に立候補してくれた三名に、進明中学校に対する思いを聴かせてもらいました。すると、「自分たちの手で自分たちの学校を創っていききたい」「みんなに誇れる学校にしたい」と、それぞれが熱く語ってくれました。みんなのことを考える、その思いが脈々と受け継がれていることを実感しました。

校訓『明るく正しくたくましく』のもと、「確かな学力」「豊かな心健やかな

体」「自立した生徒活動」を三つの柱に、地域との絆づくりを大切にしながら、笑顔あふれる学校・安全で安心できる学校・地域とともに歩む学校を目指して、「わくわく」する教育活動を推進していきたく思います。

### 笑顔が素敵な子どもたちに

殿下中学校長 小辻省一



三月中旬の色のない風景が、三月下旬からは淡いピンクや濃いピンクへと色づき始め、四月

に入ると萌黄色から黄緑、そして五月には鮮やかな緑色に包まれる。そんな山間に殿下幼小中学校があります。山間の谷を埋め立て、地区の中心部に建てられた校舎からは、当時の地域の方の教育に懸ける思いが伝わってきます。過疎化の波に押されて、児童生徒数は年々減少傾向にあります。令和、そしてさらに続く新しい時代を生き抜くための資質や能力を子どもたちに育むという責務を改めて感じています。小学校は今年度から、中学校は来年度から新学習指導要領が完全実施されることに合わせて、学校教育目標を「未来に活きる力の育成」とし、常に未来や将来を意識しながら、教育活動を実践していきたくという思いを込めました。本校は、小中併設校なので、九年間を見通した系統性のある学びができます。キャリア教育を軸に今一度カリキュラムを見直しながら、より効果的なものにしていきます。少人数のため対話的な活動は活発というわけにはいきませんが、遠隔授業や「iCT」などの「ICT」機器を積極的に取り入れたり、小中や近隣の学校との合同授業を行ったりして、コミュニケーション力や行動力を高めていきたくと思います。幸いなことに、地域の方々も大変協力的です。その強みを活かし、すばらしい先生方とともに地域と一体となった教育活動を推進

し、子どもたちの笑顔が素敵な学校を創っていきます。

### 至誠の教え

足羽中学校長 野路美智男



本校は、福井市の南部に位置し、文殊の山々とともに四季の移ろいを楽し

むことができます。然のもと、全校生徒四二六名が通う比較的大きな規模の中学校です。十年ぶりに古巣に戻る形で、足羽中学校の校門をくぐったとき、懐かしさとこれからの責任の重さを背中にひしひしと感じました。校訓は「自主・至誠・実践」ですが、その中でも特に「至誠の教え」を重要視していきたくと考えています。至誠とは、礼儀正しく、真心を持って相手の立場に立つて考えられることを目指す教えです。その一面を四月八日に教科書配布を行った際、垣間見ることができました。午前中、登校して来た新二、三年生一人一人に、校長が入った名札を手に「新しくします！」と声をかけると、多くの生徒がその場に立ち止まって「私は〇〇です。よろしくお願いします！」と丁寧にあいさつを返してくれるのです。とても嬉しい気持ちになりました。このようなすばらしい生徒でいっぱいの方に創り上げられた前校長先生、教職員の先生方、保護者及び地域の皆様の思いを受け継ぐだけでなく、自分ができることを一杯していかなければならないと改めて誓いを立てました。そして、「生徒や先生方が一つになって、より良いものを創りあげていく」という意味の「足羽魂」を公言業に、これから先一歩ずつ前進していきたくと考えています。

### 小中一貫した「未来を切り拓く力」を育む教育を目指して

粟中学校長 山本裕一



本校は、明治六年に創立され、私が第三十九代校長にあ

たりという、歴史と伝統ある学校です。福井市の北西部に位置し、北に三里浜の砂浜海岸、南に朝倉山と大自然に恵まれた地域にあります。地域の特産物の一つである「らっきょう」を、全校児童生徒が保護者や地域の方とともに切る「らっきょう切り」は、代々受け継がれてきた特色ある行事です。

私自身、本校には六年ぶりの勤務となり、すべてが懐かし、素直で誠実で、まっすぐな子どもたちや、大変温かく、協力的な保護者・地域の方と共に、教育に携わることができ喜びでいっぱいでした。しかし、令和二年度は「存じない中での通り、臨時休業がなかなか明けない中でのスタートになってしまし、改めて、子どもたちの存在の大きさに気づくとともに、普段何気なく行われてきた教育活動そのものの大切さを実感している毎日です。

さて、本校は、小中学校の併設校で、「九年間を見通した小中一貫教育」を実践するにふさわしい環境に恵まれていると言えます。小中で連携しながら、①「生きて働く知識を確実に身につける授業づくり」②「育成を目指す資質・能力を明確にし、生き生きと互いに学び合うことにより、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくり」を実践し、試行錯誤を繰り返す中で、「未来を切り拓く力」を育む教育を実践していきます。また、個性や多様性を認め合える集団づくりを通して、子どもたちはもちろん、教職員も笑顔でいっぱいになる温かい学校づくりを進めています。何卒よろしくお願いたします。

### 『チームたかす』で

鷹巣中学校長 福本敏巳



越前加賀国定公園のそばにある本校の窓からは、日本海が一望でき、学校周辺の森から

はホトトギスの鳴き声が毎日聞こえてきます。そんな豊かな自然環境に囲まれ、国指定の重要無形文化財「仏舞」や免鳥夜網節、葦浦太鼓、剣舞といった伝統文化が息づく地域に赴任して一ヶ月が経ちました。休校措置継続のため、前任教では生徒にお別れの言葉もかけられず、現在では児童生徒の声も聞こえず、姿も見えず、とても不安で奇妙な毎日を送っています。私だけでなく、社会全体がこの先どうなるのか全く予測がつかない現状ですが、感染が一日も早く終息し、通常の社会生活に戻り、学校にも戻しそを願っています。

そういう状態ですが、我が校の先生方は、在宅勤務を交えながら、学校では子ども園が開くまで、小学校校舎で子どもの監護にあたり、職員室では、児童生徒の様子を知るための電話連絡、教材研究や、掲示物作成、校地内、校舎内の清掃などの環境整備、授業がないかわりに動画製作・配信などと頑張ってくれています。また、施設技師さん・調理技師さんには校内を毎日アルコールで消毒していただいたり、時には、暖かいお昼ご飯を作ってふるまってくださったりと、なにかと協力を頂いています。この一ヶ月は子どもを見られない分、教職員がよく見えた一ヶ月でしたが、いつ学校が再開してもいいように努力して下さる教職員の皆さんの姿を見て、『チームたかす』が心強く、頼もしく感じました。この『チームたかす』で先の見えないこの一年を乗り切っていきたいと思



## 生徒が誇りをもてる学校に

清水中学校長 田中 佳之



令和二年度の福井市清水中学校が七十七人の新入生を迎えスタートしました。とはいっても、新型コロナウイルスの影響で例年とは違った形でのスタートです。

約三ヶ月間の臨時休業の中、担任の先生が子どもたちと電話連絡を取ったり、家庭訪問をしたり、また時間差を設けての登校日を設定したりと、保護者の方にもご負担をかけたことと思います。

しかし、この間の生徒たちの様子や与えられた課題の進み具合、学校への問い合わせの内容等を考慮すると、大変落ち着いた学校であることがうかがい知れます。そして、これまでも校区四つの公民館が生徒たちの活動を支援してくださるなど、地域をあげて学校を支えてくださっていることも感じます。

自然に恵まれ、地域に支えられているこの素晴らしい学校で学べることに、生徒たちは幸せを感じています。本校在学中に確かな学力と豊かな人間性を身に付け、立派な社会人になっていくことで、生徒たちはこの清水中学校に誇りをもつてくれること信じています。大人になっても清水中学校卒業生でよかったと言ってもらえるよう、教職員が一丸となって教育活動に取り組んでまいります。

## 良き伝統を引き継いで

三国中学校長 黒川 智幸



本校のある坂井市三国町は、福井県最大の河川九頭竜川と支流竹田川の河口に位置し、かつて北前船交易で隆盛を極めた歴史

や文化、格子戸が連なる町家、豪商の面影が残る歴史的建造物など情緒ある町並みが三國湊には残っています。また、北陸三大祭りのひとつといわれる三國祭りでは、武者行列、大御神輿、山車曳きなどに、多くの生徒が参加し活躍しています。このような伝統ある地区に全校生徒五〇七名の三国中学校はあります。

本校は「正強美」の校訓のもと、思いやりがあり、違いを認め合える生徒、夢や目標の実現のために粘り強く困難に立ち向かえる生徒、美しい言葉遣いや身なりを心がけ、美しい将来像を描く生徒、これらの生徒の育成をめざし、保護者や地域の温かいご支援に支えられながら、教職員がワンチームで教育活動を進めています。良き伝統を引き継ぎながら、通って楽しい学校、通わせて安心な学校、地域から愛され、信頼される学校の実現に向けて取り組んでいます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で新学期の開始から様々な困難に直面していますが、生徒・教職員・保護者・地域がチーム三中となって、この難局をしっかりと乗り越えていけるよう教職員の先頭に立ち最善を尽くして取り組んでいきます。

## 生徒が主役の学校づくり

丸岡中学校長 水持 直幸



丸岡中学校は、坂井市の東側に位置し、生徒数は五七四名。校舎からは丸岡城を見ることができ

ます。中野重治氏が作詞した校歌には、ふるさと丸岡を愛し、ふるさと丸岡を築き、平和な日本を創るという壮大な思いが歌われています。校訓は「礼儀、責任、自主、練磨」であり、落ち着きがあり、活気あふれる明るい校風を長年にわた

り築きあげています。本校は、地域ボランティア活動に力を入れ、古城祭りや日本一短い手紙に参加

するなど、地域と結びついた活動に積極的に取り組んでいます。地域の方から様々なことを学び育てていただき、地域と共にある学校を目指しています。PTA活動も盛んで、広報誌づくりや文化祭ボランティアや物品バザーなどに多くの保護者のご協力をいただいています。

今年度は、いろいろな制約があります。「丸盛タイム」という生徒会企画の全校レクリエーションや「思いやり清掃」という伝統の上に、生徒が主役となる活動を盛り込みながら、生徒の通いたい学校、保護者の通わせたい学校、教員の勤めたい学校を作りたいと思います。

生徒一人ひとりと真剣に向き合い、学力や体力の向上と、よりよい人間関係を築く力や変化する社会に対応する力を育めるよう、教職員が情熱を持って物事に取り組んでいきます。また、県立高校から義務制に戻ったこともあり、中学校と高校との懸け橋になれるよう努力していきます。

## 念(おも)いを前面に

春江中学校長 市村 直哉



本校は、坂井平野を中心とした農村地帯、大型量販店が建ち並ぶ商業地帯、そして春江駅周辺の住宅地帯が広がる、生徒数七五七名の大規模校です。

昭和二十二年に創立されて以来、「賢く正しく、遅しく」の校訓が脈々と引き継がれ、知徳体の調和のとれた心身ともに逞しい生徒の育成に力を注いできております。

四月に本校の校長として赴任しましたが、コロナウイルス感染防止対策のため、また生徒と会えない状況です。しかし、校長としての強い思いを、生徒や教職員に伝えたいと考え、「念(おも)い」という漢字を用いて、便りを作成していま

その念(おも)いは、自分の考えを伝え、賛同して協力してもらおう経験をしてほしい、つまり、生徒全員がリーダーシップを発揮する力を身に付けてほしいということなのです。

そのためには、生徒を信頼して任せることがどれだけできるかが重要になります。教える授業から学ぶ授業への転換や生徒指導の在り方の見直しが必要で

す。生徒に任せられれば教職員の多忙化解消にもつながります。

## 輝きながら

和泉中学校長 長谷川 秀樹



大野市和泉中は、県の最東端に位置し、車で三十分も走ると、岐阜県境にたどり着く所にある

ます。通勤路の周囲では、中部縦貫道路の工事が刻一刻と進んでいます。桃源郷である学び舎には、小学生一六名・中学生六名に加えて、保育園児四名も過ごし、日々の生活そのものが、保小中連携の創造となっています。

赴任にあたり、「和泉ならではの長所と短所を垣間見ることができたので、早々に、全教職員でクロスS.W.O.T分析を3ステップで行いました。その結果、優位積極化↓ゲストティーチャーの促進、打開検討 ↓行事の随時省察、豊かな発信

段階的改善↓保護者参画授業、防衛・撤退↓充実感を伴った精選のような、具現化を想起することができました。おそらく、机上論と現実とは乖離した部分があることでしょう。しかし、「自分に風当たりが強かるうと、後踏のために輪廻から脱却し、新しく一歩を踏み出すという気持ちで」さいいます。「市

川海老蔵)の言葉を胸に、トライアル&エラーを繰り返したいと思っています。「和泉の強みを生かし、一人ひとりを輝かせよう」という目標の下、「輝く心」「輝く学び」「輝く身体」「輝く交流」の醸成に努めてまいります。児童・生徒は勿論、教職員も輝きながら。

## 毎日小さな挑戦

上庄中学校長 安下 和男



本校は大野市の南部に位置し、東には清らかな真名川と日本百名山の荒島岳を仰ぎ、四

方を田園に囲まれています。また、体育館の横には樹齢百年近い松の林や、校庭脇には樹齢五十年を超える桜が並ぶ高さ五メートルほどの土手があるなど、自然豊かな環境にある学校です。本校区では、「上庄十五年教育」を掲げ、こども園・幼稚園・小学校、そして、地域が一体となつて、賢く健やかな上庄つ子の育成に努めています。一小一中学校区ということで、気心の知れた仲間や先輩たちと支え合い、落ち着いた学校生活を送っています。一方で、失敗を恐れず、新しいことにチャレンジすることに對しては、苦手意識を持つている生徒が少なくないようです。本校では、平成二十五年度からこの課題を克服すべく、自己表現の場や生徒間の相互理解が深まる機会を意図的に増やしてきました。

今年度においても継続して取り組む中で、スクールプランによる校長からのメッセージとして、へめぎす生徒像の一つに、「毎日小さな挑戦」という言葉を掲げました。「一気に大きな成果を狙う挑戦は必要ない。一日一日の小さな挑戦が、いずれ大きな実を結ぶ。」ということを生徒に伝えたいのです。令和二年度の幕開けは、想像を絶する苦境となりましたが、こんな時だからこそ、今日、今やるべきことを丁寧にすることが大事だと

考えています。

## 「徳の道」を歩む

尚徳中学校長 土藏 清治



本校は、大野市の北東部、日本百名山荒島岳と三百名山経ヶ岳の麓から九頭竜川右岸流域の田園に及ぶ農山村部を校区とし、四学級八八名の中学校です。現在、中部縦貫自動車道大野油坂道路の工事が学校のすぐ近くで進められ、今春入学した生徒が卒業するまでには完成する予定で、今後周辺は大きく変貌していくことになるでしょう。

さて、本校には、「徳(のり)の道」という建学の志があり、生徒がよりよい人間として成長していくための道標になっています。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休業が続いている中で、校長室や書棚の整理をしていたところ、これまでの学校だよりや式辞などの資料が奥底から出てきました。これらを読んでみると、歴代校長がこの志を折に触れていろいろな切り口で生徒に語りかけていました。本校は間もなく創立六十年を迎えます。これまで培った伝統を礎に、教職員が一丸となって生徒に「徳の道」の具現化を働きかけていきます。「徳の道」の全文を紹介できませんが、「己の人格を陶冶せよ」で締めくくられています。生徒たちには、学校だけでなく家庭・地域の中で、己を鍛え練り上げ、予測が困難な時代であっても堂々とした足取りで夢に向かって自分の道を歩み、これからの持続可能な社会の担い手に育ってくださることを願っています。



## 自主自律

東陽中学校長 鈴木 和欣



鯖江市の東部に位置し、すぐ横を鞍谷川が流れ、南には三里山を仰ぎ、四方を田園に囲まれた、豊かな自然環境の中に東陽中学校があります。令和二年度は一〇四名の新入生を迎え、全校生徒三〇三名でスタートしました。

本校は、校訓「自主自律」のもと、「自ら学び、共に生きようとする生徒の育成」を学校教育目標に掲げ、日々の教育活動に取り組んでいます。

今年度は、ICT機器や新聞などを効果的に活用しながらの授業のユニバーサルデザイン化、ふるさと学習としての東陽陽プロジェクト(東陽中校区を校の花人一倍いにしようという取組、生徒一人一人が幸せにたくましく生きる力を育むためのポジティブ教育、部活動の最初に全部活動が一斉に取り組む全校体育等に全校体制で取り組んでいく予定です)。

新型コロナウイルスの影響で、残念ながらまだ生徒と対面できていない状況ですが、このような活動を通して「自主自律：人に頼らず自分がめあてをもつて考え、行動すること」ができる東陽中生徒の育成をめざします。また、これらの取組には、保護者や地域の方々の想い、願いを大切にしながら、保護者・地域・学校が三位一体となって進めていきたいと思います。

## 地域とともに歩む

武生第五中学校長 坂下 博行



本校は越前市の西部、白山区の山々に囲まれた自然が豊かな地域にあります。国の特別

天然記念物であるコウノトリの姿も見られ、今年四月には新しいひなが誕生し、地元の人たちはその成長を見守っています。

全校生徒三八名の小規模校のため、子どもたちは学校だけでなく、地域の宝として育てられています。しかしながら、近年は若い世代の流出が止まらず、少年も併せて、地域の人口は急激に減少しています。それゆえ、生徒にふるさとへの愛着心を育むための体験活動に力を入れています。

その一つが地区のシンボルの存在であるコウノトリと共生できる環境を考える探究学習です。毎年、縦割り集団でコウノトリの餌となる生物生息数の調査を行うとともに、学習の成果をまとめた学校新聞を地区全戸に配布し、生徒の学びの姿をお知らせしています。二つ目が白山地区の名産であるスイカの栽培です。委員会ごとの縦割り集団で活動しますが、上級生が下級生に教え、学年を越えて問題点について話し合い、行動するものとなり、協力して高めあう集団づくりで寄与しています。また、収穫したスイカは地区で行われるサギ草展の会場で販売し、その収益をコウノトリの餌としてドジョウを県に寄付する取組も行っています。

この二つの体験活動はともに、地域の方のご指導と応援を受けて進められています。今後も生徒を中心に家庭や地域の協力を得ながら、地域や社会を支えていく人を育む教育を推進していきます。

## 笑顔でつながる学校に

今庄中学校長 今村 憲和



本校は嶺北の最南端に位置し、校舎のすぐ横を日野川が流れ、周囲は緑多い山々に囲まれた大自然の中にある学校です。校区は南北朝時代からの古い宿場町であった

という歴史もあり、地域の人々は温かく、子どもたちも素直でとてもやりがいのある職場です。

今年度は「新型コロナウイルス感染症の件もあり、今までに経験したことのないスタートとなりました。長引く臨時休業により教育活動の再開の目処が立たない中、校長室での仕事は不安の多い毎日でした。そんな中、町内の中学校の校長先生方や地区の民生児童委員、社会教育委員、PTA役員の方々などいろいろなことを相談させて頂き、少しずつではありますが前が見えてきたように思っています。こんなときだからこそ思うのが『笑顔でつながる』ことの大切さです。立場の違いいろいろな方々と笑顔でつながっていればどんな困難でも乗り越えていける。あとは元気な生徒たちの笑顔とつながることができれば言うことありません。一日も早く通常の教育活動ができる日が来ることを願いながら、生徒や教職員はもちろんだ地域の方々や他の学校の方々とも笑顔でつながり、優しい笑顔いっぱい今庄中学校にしていきたいと思っています。二年後には町内の中学校は統廃合により一つになります。新しい学校に変わっても、生徒たちが胸を張って「今庄中学校から来ました！」と言えるように、微力ではありますが頑張っていきたいと思っています。

「自立・貢献」を  
目指した学校づくり

河野中学校長 瀬戸 勝

本校は、南越前町の西部、河野地区にある全校生徒三十八名の小規模校です。近年、河野地区では北前船主の館や河野梅などの歴史や産物を資源とした観光業に重点が置かれると同時に、若者が定着できる地域づくりを力を入れています。

本校の今年度の学校教育目標は「自立・貢献」です。教職員はもちろん、生徒、保護者、地域の方々に学校を目指す教育理念をわかりやすく伝えたいと考え、設定しました。

「自立」には、自分の力で判断して行動できるという意味があります。生徒には課題に直面した時に、解決のみならず、考え、他者と協働する中で自分で決断できる力を育成したいと考えています。そして、私たち教職員もまた楽しく主体的に学び、力量の向上に努めたいと思います。「自立」した教職員が本音で話し合うチーム河野中でありたいです。

「貢献」で目指すのは、社会のためになる行動ができる人の育成です。本校では特産の梅もぎと梅干しづくり、へしこづくりなどふるさと河野の産業を理解する体験学習を行っています。近年、人口減少が顕著になっています。ふるさとを大切にする人の育成は重要課題です。今後、先人たちの偉業などについて知る学習も取り入れ、ふるさと河野を愛し、将来のあるべき姿を考えるふるさと教育を重視したいと考えています。

勤務校は私の母校でもあります。生徒のため、地域のために「モットー」とする率先垂範で尽力したいと思っています。

## 学びを楽しむ学校に

気比中学校長 木原 茂子



本校は「心豊かにたくましく、未来を切り拓く生徒の育成」を学校教育目標に掲げ、全校生徒四二二名が学びを楽しむことができない学校づくりを目指しています。

その手立てのひとつとして、自治的な生徒会活動への取組があります。「Our Best」信頼できる仲間づくりをスローガンに、仲間と認め合い支え合いながら、自分たちの力の全てで課題に

立ち向かい、もう一歩先へと挑戦できる生徒の育成を目指しています。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けて、学校内外での新しい生活様式としてのルールやマナーを生徒会が発信し、実践に繋げる取組が始まっています。

また、校区の商店街や市役所観光部との連携により、北陸新幹線敦賀開業に向けてのまちづくりを生徒たちが参画する機会を得ています。中学生ならではの視点や感性をもとに、地域の一員として何ができるかを考え、役割を担おうとしています。

生徒たちが学校の内外で、学びを生かして生き生きと楽しんで活動できるよう、地域から信頼される学校でありたいと思います。生徒、教職員、保護者や地域の方々が、一緒になって学びを楽しみ、感動し、感性を磨き繋がりながら、感謝を伝え合える学校づくりを目指して努力していきます。どうぞよろしくお願ひします。



## 次のステージに向けて

小浜第二中学校長 加福 秀樹



本校は小浜市の中心部に位置していますが、校区が大変広く、生徒は周辺部からさまざまな方法で通学しています。校区の小中学校が統合再編により三校減り、今年度は五校からの受け入れとなりました。新設校から初めての受け入れとなります。今年度は生徒数四一九名でのスタートです。

昨年度まで三年間、「愛される「中学生」を目指し、「向上」つながり、勤労を合言葉に、自治的活動を中心に学校づくりに励んできました。今年度は、前校長の意思や流れを受け継ぎ、次のステージに向けて学校をさらに発展させていきたいと考えています。

教育活動では、二十年以上前から、赤ちゃん抱っこ体験を通して、命の教育を実践しています。この取組を軸に、生徒が生き生きと活動できる土台をしっかりと醸成したいと考えています。その上で、キャリア教育とふるさと教育を推進し、自分の学校やふるさとに誇りを持つ生徒を育てたいと考えています。

教職員には、経営に参画させる機会を多く与え、成果を共有しながら「チーム二中」を盛り上げていきたいと思っております。そして、生徒、保護者、教師が互いに成長を喜び合える学校づくりに励みたいと考えています。

## 未来のために

名田庄中学校長 中島 正一



若狭湾の南、おおい町の山間地に位置する名田庄中学校は、「水清く山風晴し春は花秋は木の実のたわに実る」と校歌に詠われているとおり、四季折々の表情を見せる豊かな自然に恵まれ、地域の人々の温かい心に支えられた学校である。

中学校に勤務し続けて三十六年、この春も、新しい出会いと、新しい生徒や教員との学び合いを心待ちにしていた。しかしながら、「近づかない」「話さない」「家で過す」など、およそこれまで学校が大切にしてきたことを否定する毎日が続いている。離れていても、なんとか

して子どもたちとつながる方法を工夫しながら、一日も早い事態の収束を願うばかりである。

そんな中でも、「協力できることがあれば何でも言ってくれたい」と、保護者や地域の方々の言葉は温かい。登校日に出会った子供たちの笑顔も心強い。

何年後かにこの時代を振り返ったとき、子どもたちは、辛抱の一年だったけど、この学校でよかったと思えるような一年にしたい。

教師も、あの時代と一緒に乗り越えたのだから、きつとがんばれると自信につながるような一年にしたい。

未来を生きる子どもたちのために、職員一同支えてくださる方々と力を合わせて日々取り組んでいく決心である。

## 未来を切り拓く力を

大飯中学校長 時岡 聡



本校は、おおい町を流れる佐分利川の中流に位置する、生徒数一五六名の小規模校です。校区は山・川・海の豊かな自然に恵まれ、学校教育に対する関心・期待が高い地域です。私自身本校の卒業生であり、校長として母校に赴任できることに喜びを感じると同時に、あらためて身の引き締まる思いです。

本校では、「頭は英知に心は豊かに身体は頑健に」を校訓とし、心豊かでたくましく未来を切り拓く生徒の育成を学校教育目標に掲げ、教育活動を進めています。特に、「三心(心を繋ぐ・心を磨く・心を整える)三行動(挨拶)黙働流汗清掃(整理整頓)」を「大飯中学校の誇り」として位置づけ、生徒と教職員が「丸」として取り組んでいます。今年度は新型コロナウイルスの影響により、生徒も教職員も未だかつて経験したことのない困難な状況に置かれ、あらためて本校の教育目標である「未来を切り拓く」力の大切さを再認識する機会を得ています。現在がそうであるように、難しい課題に直面しても、自らを律し、多様な考えを認め合い、他と協働して課題を解決し、新しい価値を生み出していく力がこそが本校の目指す「未来を切り拓く」力だと考えます。

常に生徒の成長を第一義に考え、家庭、地域と連携しながら、すべての生徒にこの「未来を切り拓く」力を育むべく、教職員一同力を合わせて教育活動を進めていきたいと思ひます。

## 地域とともに

「未来」に向かつて

内浦中学校長 畑田 憲克



本校は、福井県の西端、青葉山の麓にあり、車で二分も走ると京都府との県境という位置に建っています。全校児童生徒三十六名、複式学級二つを含む七学級の小中併設校です。校舎の周りは自然にあふれ、教室からは若狭湾が望める自然豊かな地域です。その中で子どもたちは、心豊しく元気にすくすくと育っています。

今年の教育目標を「未来に向かつて挑戦する子」としました。先生方には、教育目標に込めた思いを伝え、「未来」という明るくポジティブなイメージ、「挑戦」という自分から積極的に働きかけるイメージを共有しました。また、行われていない始業式では、子どもたちに、「自分の未来のために、学習や運動に進んで取り組み、人間性を磨いてほしい」ということを話そうと考えています。

本校は地域との関係が深く、これまで地域と共に歩んできました。体育大会は地域との合同で行われ、地域イベント「来て！ミナーレ内浦」には、中学生は企画・運営に携っています。学習発表会は、児童生徒の家族ばかりではなく地域の方が多数お越しくださいました。そんな地

域ですので、地域で行う学習には快く応じていただき、とてもありがたく思っています。そんな地域にお返しができるのは、児童生徒をしっかり育てていくことです。職員が「丸」となってその使命が果たせるように、日々取り組んでいきたいと思ひます。



## 編集後記

昨年末より世界中に広がった新型コロナウイルス感染症。日本では、一月十六日に初の感染者が確認され、その後感染者が猛烈な勢いで増え、学校の休校措置がとられることとなりました。学校の休校は延長され、入学式もできないといった状況が続きました。予定されていた県中学校長会南越大会が中止になり、「広報紙を発行することはできるのだろうか」正直そんなことも考えました。

それでも学校は子どもたちの学びを実現しようと工夫を重ね、学校再開後の準備をしてきました。そして学校再開。更なる感染予防を徹底してこの状態を維持し、本来の学校生活に戻していきたいと思ひます。

このような大変な状況の中でも、原稿を準備してくださった校長先生方、本当にありがとうございます。

広報部